

【解 答】

1. 腸間膜静脈硬化症 (mesenteric phlebosclerosis) 2. 野草摂取の中止

解説：

腸間膜静脈硬化症 (mesenteric phlebosclerosis; MP) は、2003年にIwashitaらが新しい疾患概念として提唱した¹⁾。基本的な病態は、腸壁から腸間膜静脈における石灰化にともなう腸管循環不全による虚血と考えられており、右側結腸を中心に炎症反応をとまなわない慢性虚血性変化とされ



Figure 2. 腹部単純CT検査：腸管壁の肥厚と、腸管壁周囲に沿った高度な石灰化を認める。

ている。症状は、虚血にともなう腹痛、下痢、便秘などが多いが、重症化し腸管狭窄をきたすと悪心・嘔吐や腸閉塞を併発する。一方、軽症例では、無症状のまま内視鏡検査で発見されることもある。MPでは、通常虚血性大腸炎で一般的に認められる突発的な血便の頻度は高くない。本疾患は、やや高齢者に多く、日本を中心としたアジアに罹患者が集中している。その要因は発症と漢方薬長期内服との関連に基因する。頻用される生薬である山梔子を含む漢方薬は、多くの症例で内服されており、強い関連が示唆されている²⁾³⁾。したがって、MPを疑う症例には、薬剤内服歴などの詳細な病歴聴取が必要である。また、本症例のように野草摂取の習慣による山梔子摂取では、内服薬としては特定できないので注意が必要である。

MPの典型例では、特徴的な画像所見を呈する。腹部単純X線や腹部CT (Figure 2) では腸管周囲の石灰化が認められる。注腸X線検査では、拇指圧痕像や硬化像、腸管の変形、ハウストラ消失などを認める。内視鏡所見 (Figure 1) としては粘膜の色調が最も特徴的であり、暗紫色や青銅色などと表現される独特の色調を呈する。また、浮腫やハウストラの消失、血管透見像の不明瞭化や消失をとまない、びらん、潰瘍を認めることもある。慢性的に病態が継続すると腸管が硬化し、狭小化をきたすようになる。これらの変化は、通常は右側結腸に高度であるが、長期経過例では本症例のように左側結腸に病変が及ぶこともある。

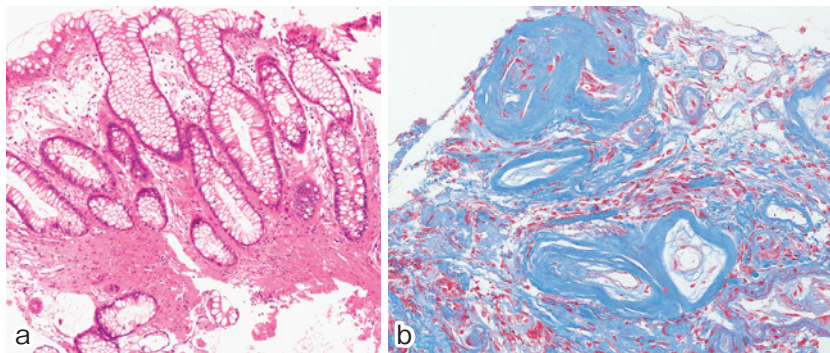


Figure 3. 上行結腸病変部の生検組織所見 a：ヘマトキシリン・エオジン (HE) 染色では、粘膜固有層に著明な好酸性の沈着物がみられる。b：マッソントリクローム (MT) 染色では、静脈周囲に高度な膠原線維の沈着を認める。

MPの確定診断は、生検病理組織学的所見 (Figure 3) により行う。特徴的な所見として、①静脈壁の著明な線維性肥厚と石灰化、②粘膜下層の高度の線維化と粘膜固有層の著明な膠原線維の血管周囲性沈着、③著明な石灰化を示す静脈に隣接する動脈にも石灰化をともなう、④粘膜下層の小血管壁への泡沫状細胞の出現、が挙げられている¹⁾。鑑別疾患としては、collagenous colitis やアミロイドシスなどがある⁴⁾⁵⁾。

治療は、まず原因となる薬剤の内服中止や食物摂取の習慣改善が主となる。軽症から中等症例では可逆的に症状や画像所見の改善を認めるが⁶⁾、腸管狭窄が高度な場合は外科手術を要する。

参考文献：

- 1) Iwashita A, Yao T, Schlemper RJ, et al: Mesenteric phlebosclerosis: a new disease entity causing ischemic colitis. *Dis Colon Rectum* 46; 209-220: 2003
- 2) 大津健聖, 松井敏幸, 西村 拓, 他: 漢方薬内服により発症した腸間膜静脈硬化症の臨床経過. *日本消化器病学会雑誌* 111; 61-68: 2014

- 3) Hiramatsu K, Sakata H, Horita Y, et al: Mesenteric Phlebosclerosis Associated With Long-Term Oral Intake of Geniposide, an Ingredient of Herbal Medicine. *Aliment Pharmacol Ther* 36; 575-586: 2012
- 4) 池田圭祐, 岩下明德, 原岡誠司, 他: 特発性腸間膜静脈硬化症の病理. *胃と腸* 44; 138-152: 2009
- 5) 八尾隆史, 平橋美奈子: 特発性腸間膜静脈硬化症の病態と鑑別診断. *Gastroenterological Endoscopy* 54; 415-423: 2012
- 6) 西村 拓, 松井敏幸, 平井郁仁, 他: idiopathic mesenteric phlebosclerosis (特発性腸間膜静脈硬化症) の経過. *胃と腸* 44; 191-205: 2009

本論文内容に関連する著者の利益相反

：平井郁仁 (アッピィ合同会社, EA ファーマ株式会社, 田辺三菱製薬株式会社, ヤンセンファーマ株式会社, 持田製薬株式会社)

出題：平井 郁仁 (福岡大学医学部

消化器内科学講座)